

「福島は今」学習会を開催

全労協女性委員会

6月1日、女性委員会主催・東京全労協後援で、福島在住カメラマン飛田晋秀（ひだしんしゅう）さんと福島で活動されている佐藤昌子さん（ふくしま連帯ユニオン）をお招きし、写真から見る福島の今の学習会を行いました。参加者の大半が事故後の福島に入ったことがある中、それだけでは知ることができなかった事実が次々と報告され、内容の濃い学習会となりました。



無人の町で動き続ける信号機、その町を闊歩する野生化した牛・ダチョウ・猪豚の姿に「機能はあるのに人が住めない」という現実をまざまざと突き付けられ、無人の家扉に「支払い続けているローン額と隔たりのある東電の補償額」などが板書きされている写真からは住民の怒りが伝わってきました。また色々な物が盗まれているという中で「放置していた米30俵がいつの間にか消えていた」との報告には背筋に寒気が走り、「この高線量と思われる盗んだ米はおそらく何処かへ転売され換金されていることが容易に想像がつきます」と。

高線量地で何も知らされず防護服も身に付けずに働く人々、子どもたちに広がるガン、動植物の変異体…。問題が山積みのまま帰宅を促す政府は、一体どこに帰れとっているのでしょうか。

今回の学習会は「復興」とは何か、今後、私達はどのようにしていくべきかを考える上で必要な知識のひとつになっ



たと思います。

争議中の子ども脱被ばく裁判から、また全国一般東京労組フジビグループ分会、同コンチネンタル分会をはじめ、全労協青年委員会からの参加もあり、短い時間ではありましたが、質疑応答が沢山出され有意義な学習会となりました。

その後の懇親会では楽しく談笑しながら、日頃の講演の様子や活動にかかる細々としたことまでお話いただきました。国外からも講演依頼があることに比べ、国内の特に都内での開催が少ないとのこと。福島を他人事にせず風化させず現実に向き合っていきたいと思う学習会でした。

(全労協女性委員会 渡辺香織)

飛田晋秀HP「福島のすがた」<http://hida-fukushima.com/index.html>



飛田代表が2013年12月3日に著書を刊行しました！

第2版を2014年6月に増刷しました。

タイトルは、写真集「福島のすがた～3.11で止まった町～」です。

写真とキャプションを入れることによって資料的価値があると評価をいただいています。また、海外向けの販売を考慮して、日本語と共に英文のキャプションを付けています。



生活の一瞬を切り取り、時間の止まった現実を写真に写し撮っています。

飛田晋秀ホームページより掲載写真の一部を転載しました。

